

## 全てのステークホルダーから、より信頼されることを目指す企業文化を築いてまいります

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

当社グループは、平成18年4月に、平成20年度を最終年次とする3か年の「2006-2008年度グループ中期経営計画」を策定し、当社の企業価値および株主共同の利益の最大化に資するべく、これに取り組んでおります。

平成18年度(平成18年4月1日から平成19年3月31日)の連結業績は、売上高は前期に比べ2,429億円増収の1兆9,102億円となりましたが、営業利益は、増収に伴う利益増はあるものの、総平均法による在庫評価に伴う収益押し上げ効果が前期に比べて減少したこと、当期に実施した機械装置の減価償却方法の変更によって償却負担が増加したことなどにより、前期に比べ117億円減益の2,086億円となりました。一方、経常利益は、63億円増益の1,832億円となりました。また、税引き後の当期純利益は、1,096億円となり、経常利益および当期純利益につきましては、過去最高益を更新いたしました。

当期の期末配当につきましては、継続的かつ安定的な実施を基本としつつ、当期の利益水準、配当性向、将来の成長のために必要な投資資金、財務状況などを総合的に勘案し、1株につき4円とさせていただきます。これにより、当期の配当は、中間配当と合わせて、前期に比べ1株につき1円増配の7円となります。

今後の見通しにつきましては、国内の設備投資や個人消費など民間需要が引き続き増加すると見込まれるなど、景気は引き続き緩やかな拡大が続くものと予想されますが、米国経済の動向や中国での鋼材生産の更なる拡大による汎用品市況の軟化など、懸念される要素もあり、必ずしも楽観できる状況ではありません。

このような状況のなか、当社グループは、「グループ中期経営計画」を着実に実行し、時代の流れをとらえ、「オンリーワン製品」を拡充し、財務体質の改善を進め、事業競争力に磨きをかけ、持続的に事業基盤

強化を進めてまいります。また、これらに加え、コンプライアンスをはじめとした内部統制システムの確立・実践や環境保全といったテーマについても一丸となって取り組み、企業価値の向上を目指してまいります。

「神戸製鋼グループ企業理念」は「信頼」という言葉から始まっております。当社グループは、株主・投資家、取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様からの評価や信頼こそが、企業価値向上の基盤に他ならないと考えております。全てのステークホルダーから、より信頼されることを目指す、そうした企業文化を築いてまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月



代表取締役社長

犬伏 恭夫